

# 新学校点描

週末にはY大学でフォーラムに参加しています。学びとは死ぬまで自分を変化させることだと聞きました。

《K中学校》

NO.14 R3. 12. 22

担当：校長

地区読書感想画コンクールにて、2年のK・Kさんが佳作に入りました。

県中体連から令和3年度～4年度の中学校優秀指定選手に1年のS・Kさん（アルペン）、2年のK・JさんとS・Hさん（クロカン）が選ばれました。いよいよシーズンが始まります。

12月16日（水）の6時間目に、吹奏楽のアンサンブルコンテストとスキー大会の壮行式を、後半には3年生の進路激励会を生徒会主催で行いました。S・H 新生徒会長の話はとてもわかりやすく、人の心を動かす力を感じます。激励会では、1・2年の代表の生徒（1年M・Rさん、2年K・Rさん、A・Sさん）が激励のメッセージを送りました。そのうちのひとりK・Rさんは、「先輩達は自分達の目標なんだ」と話してくれました。それに対して、3年生も4名（M・Sさん、G・Mさん、H・Rさん、Y・Rさん）が決意の言葉を後輩に話してくれました。例えば、M・Sさんは自分の考えをどうしたらうまく伝えられるかについて、入試で必要になるであろう力を自分なりに今鍛えていること、G・Mさんは、なかなか自分から意見を言えない自分の性格を振り返り、それを克服するために面接練習を行っていることなどを話してくれました。

12月19日（日）の全日本アンサンブルコンテスト山形県大会最北地区予選会において、木管4重奏、金管4重奏、打楽器5重奏に出場しました。その結果、打楽器5重奏（S・Sさん、S・Aさん、Y・Mさん、I・Rさん、K・Hさん）が金賞に輝き、1月の県大会出場権を獲得しました。

## 同胞に向けて

『～♪町の同胞（はらから）が、青春の空仰ぎつつ 面は輝き学ぶかな 年々巣立つ 若  
つばめ～♪』

音楽室の前から校歌が聞こえてきます。今年の卒業式はなんとか普段通りに校歌を歌って、在校生が卒業生を送るそんな式にしたいものです。校歌で使用されている“同胞”とは、同じ土地に生まれた者の意味です。K中という同じお腹で育ち、生まれ出ていくのが卒業式なのでしょう。生徒だけでなく、保護者同士も同胞でありたいものです。

わたしの同胞の一人に、小学校、中学校と同じ学校に通った遊び友達があります。小学校のとき、特に理由もなく松林の一角にスコップで地面を掘っていました。落とし穴ではありません、地下基地を作りたいという願望だったように思います。当然、今はもう埋められましたが、ちょっとした要塞でした。その地面掘りの友が同胞の一人です。彼は近所のラーメン屋の長男でした。

時々、学校が早あがりのとき、出前を頼むと、その友が岡持ち（おかもち）を重そうに持って配達してくれました。そうすると、わが家の家族の誰かは、いつも「感心だねー。」ってわざとらしく、私に向かって言うのです。その度に「俺だって、その気になれば・・・。」と思ったものです。



中学を卒業する日が近づいたある日、そのラーメン屋の友の父が事故で亡くなりました。出前の途中にバイクを止めて、地面掘りを手伝ってくれるおじさんでした。そんなやさしかったおじさんが死んだというのは、強烈なショックでした。野球が上手かったラーメン屋の友は野球での進学を考えていました。けれど長男でもあったことから、ぎりぎり高校進学を断念しました。そして家業のラーメン屋を継ぐために修業に出たのです。昔の高校進学は、家の事情を一番に考え、自分の希望をそこに合わせるということとはよくありました。

高校に行くのを当然のように思っていたわたしにとって、このことはさらにショックでした。その後の高校生活の間は、ただの一度も、修行に出たラーメン屋の友と会うことはありませんでした。

そして、いつかわたしも、故郷を離れました。

---

16日、寒い中でしたが、全校が体育館に集まっての壮行式+進路激励会。

自分が行きたい高校に挑戦できるということは、ある意味幸せなことです。時代が移ろう中で、幸せは当たり前になりました。

3年の担任担当教員は、夜遅くまでの受検業務に入っています。三者面談が始まりました。

---

コロナも落ち着き始めた日、久しぶりに自分の生まれた家の跡地に行きました。というのも、わたしの実家は、家を建てて、別の場所に引越したのです。

ラーメン屋は、その当時の面影を残したままありました。近所の人の話によると、昼はラーメン屋で出前中心、夜は、街に出てラーメンの屋台を出しているとのこと。

今のがんばっている彼の姿と地面掘りのときにがんばっていた友の姿がかさなります。

主のいない店内に入り、みそラーメンを注文します。奥さんらしい人が、ただもくもくと作ってくれます。ちょっぴりしょっぱいラーメンを食べ終えて、店を出ました。

もうそこには、「俺だってその気になれば・・・。」と思う、見かけ倒しの自分はいません。

そこには、困難にもめげず人生を生き抜いている同胞に向けて、ただ、恥じない生き方でありたいと思う自分がいるだけでした。

---

きりとりせん

|                 |
|-----------------|
| ご意見・ご感想をお願いします。 |
|                 |
|                 |

[Shinyatk1616n@yahoo.co.jp](mailto:Shinyatk1616n@yahoo.co.jp)